湖月抄

五あ〻ぎ

十七

秘閣藏書

繪合　花

以詞為書名　うるはしく詞は絵合とつづきうるはなさ
あやかたかの海絵ゐどあり　みるけとりの箱ようのもの
なげをあつせくあるくそふるどくあり　河前奇宮女御与弘徽殿
女御有繪合之奥故号之　細　兩度乃忌あつせあり　内くしのかの
格とかり　天徳の行合より模しくるけるくるくるり　冷泉
院を村上より　花　後拾遺集の詞　四の内親王　絵合の
ゆみくるり　扇合　双紙合　根合　どられ　行くとくく　詮要と
ゐとくく　源氏　表紙の時のゆも　絵合八三月の比のゆかり
九九　巻のゆくし　物語　ゆ　而　ゐんるさゆや　哭　氏　巻　源氏　巻　巻み
などづくしの巻と　巻　巻　巻

去て細こまかに雲こまかなる所なれどこと共と別よ中えあり さて雲の清公よ山入間の幸可盛中のくまふこと 蓋生の者をよみくこう
大原ハ 一説 源氏内府こがいこのとこもべ・但大原とこここても不苦こうこうく
二条院より 細 二条院こうこうへ内あ・せぐやと はりひのぐこと 朱雀院とぐこう 法こ
うこうこぐこうのこと 細 髪の具なれど 丸りこと こうこうの 結れてこのこうこそは
髪とくづく 髪の具 ひこうこう 仏れい 菩の名よるづを 作りこ
こうこのこと 細 この宮 清濁 仏れ 香薫 香薫 結幸 注 村 蓑 巻 昇 水原抄 ミヅ 厨
子乃武調 変也 諸香と 被納 注 薫 多 三寸 分 弘 九寸七分 長 同 こ 抄 種 こ也
こうこのこうこ 仏 種こ 春 梅花
仏 荷葉 秋 菊花 冬 落葉
黒方 伽羅 供養香 薫
衣香 補闕方 百和香 ち
どて 赦 急方 わり 百歩 支 歌 伝
百ぶの法 百歩ハ六十丈よ 南 高 伝 細 こ
百歩ハ六十丈よ 南 高 伝 細 こ
ちりよのこと 明 こ こ 白 こ
ぜ こ ぜ ひも 細 伝 こ ぜ め
て こ 絵 こ こ て こ
こ こ こ 細 伝 こ み せ
こ こ 明 女 別 武 称 こ
こ 伝 こ の 字 こ
感 清 の 大 概 こ 伝 こ し て 大
こ こ 上 隠 こ こ こ こ 伝 こ

とうけてこ こ 明 大 こ
こ こ こ 細 こ こ こ こ 只
こ こ こ 一注 斉 文 額 に こ
こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ
こ こ こ の 菩 金 仏
の 絵 の 菩 方 こ ま 松 の
枝 鶴 ホ と ま く 也 天 暦 三
年 花 花 宴 御 膳 の 打 変
ん 祭 花 花 こ く 也 代 御 前
打 打 変 の 四 角 よ い と 絲
ま て 松 枝 と し て 糸 て
糸 と 結 ひ て つ ま ま ど に
こ り て こ つ こ こ こ こ こ
れ ん 糸 の こ こ い 海 こ こ
ど の 結 よ も こ こ て 花
と こ こ り て こ こ こ こ こ
し ど る 梅 枝 巻 み も こ り
結 線 の 宮 と こ こ ろ ど こ こ め
る 細 こ こ ど こ 伝 こ こ 乃
こ り こ こ こ こ こ こ り 松 西
法 れ ど も 組 と 以 て 正 と
も こ こ こ
こ れ ど よ 明 斉 宮 代 ニ

こ こ ど こ こ こ こ 海 こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ

一夜下向し給ふ也禊の事こそ見られのこと侍りけれ付よ内裏あるまじきこと
つけ申さるべき歟よ神のいさめ給ふ孟神やゝ云よ髮と立入ル使役して
那の掃部をさしつかひてこそ新院の御ふそくとの
を仕の所ゆとゝこそ奉養使るゝ副給しに
給へ拾ぬ人の所を位の所秋文也
孟氏将くの中音信中奇事をこゝ
ゆゝ
よ氏中ゝを源の氏付ふたりゝ
いとゝでけふく 細冷泉院へまゐり給ふ朱雀院へ
ゝゝゝゝあれゝ
ゝ氏入内のゝ只紙ゝ一つの
ゝゝ孟入内のゝとふ
ゝゝ朱雀
せゝゝ

つゝしゝゝ
細ゝ
居ゝゝゝ朱雀院を
ゝゝ明日
ゝゝ 細朱雀院の
ゝゝ
ゝ 細源の
ゝ

孟朱雀の中ゝと源の氏ゝゝ
やゝゝゝゝ

みて表よりはひりとく
左右馬頭の 細 左右馬頭同じ
裏ーーーーーーーー 曉を
わのうち彩るれば
と思ひ表く
花
ろろろろ
ろろろよひーーーとこ
の別のうちなりふ何の
細 ーーーーーーー

[illegible]

細世の人いまはうまやさ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
盃權中納言のうたに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

（花紫上）

（盃ほのかに）

（細紫上の帽子絵）

（ほのかに）

（盃ほのかに）

（盃ほのかに）

（盃

とわざとてあつめまつりをきたりしかば
ことことにあらぬ物がたりの物語あるこゝろ
なりけりさまざまにあつめたる物がたりの
へのものがたりの物語あるこゝろゆへあるべきこと
いとの比世よりあるべくかりそめにもこゝろを
えりてこゝろをとゝのへたるものいまめか
さとるやうにはいとこゝろをくまなくまうけ
の女房なるべきことをよくあつめられいとれ
なるべきさまざまあるべきものをいとこゝろの
めり中宮をさつくせしまゝにるこゝろをつて
うづくまれらんじてをそれなくやはりはを
とるべきひもをとりつくは

とのつぐべきことのつぐべきよ海ぢろをとこ
しめてひぢりこぢとうこちらをはじ
めつかのれうこゝろはいるつのをけ作法
のるつかるの今姫だゝみはたゞ義のるつれ
のをけ中将の今姫三位の今姫の今姫
はゝみくこゝろつくるよみくこゝろ
あくこゝろつくこゝろもかりこゝろ
しくまゝ物語のつくこゝろこゝめのれや
かるこゝろけりのはこゝろれよりつかのこゝ
うげをあはこゝろあくこゝろふるよ作のこゝ
よりこゝろこゝかりこゝろこゝるこれ
とうこゝやびめのひこゝろりみるこれ

よハ文衣典伯掌伯余絵みで方人さう。故よ比絵合みもを例とうをり
竹とりの物語　細　物ゐ方竹とりくや姫の物語く万葉ふよ万葉のるにある伝
物語よいわくで竹元の翁竹を取く別のるく花物語の
大意をいえで竹元の翁竹をとり中にりと云る竹あり。こりてこれで三寸ばかり
のの人うつくうてゐて三月ばかりよりこれをとる人とるり。れをうくまてもをり
夜の内とてくをり。はるの名をさ竹のくやひめとつけり。世の人けさうじ。ほいさう
しくれば。くや姫のいとうつくしう。絵ゆくくをりの物をえせをうん人よをこうふべくとそく
りうのをとよ。遠葉山よ根を根とく金と草とく。ゆきを玉を葉とく。ゆきを玉を葉とく。うるあり。それ
をうつくしく。の物りよりうくよあり。大嵐のうえをねをうえをどさあくの雑賀を
ひて流よいづれもあくざりうさのちよ帝のみ。ろみもまりでりと天人ろりれ
ハ八月十五夜よ天上くてをりよりろり。花るよ。雲れ彼物語よあり
うるの　何　源頼作ゑ。伝徽殿ゑの元なり
なよ竹のうに　細　花るよ物語のをとハみくをり。竹元ゑ竹のをり
をとをりてをうる何ん。ゑ。ゑ。ゑ

夜大風雨不滅中有亂重百斤毛長三尺可畏希若不淨火以燒之則淨号火洗布也
[illegible] 暁 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うち絵と　花首八幡より出
うちを今の世より八紙より
くと紙絵とうち
今あ〳〵あ〳〵んうち
細絵の方うちの絵と今様
ようせうちハ曲もちうき
うち
絵ゆも　細　朱雀院之御時を
ゆりうちるうちぬれんうや
えんさの　河相蓋帝数延
喜帝二年已分明也不及二
異論一哉　相蓋よりうち
ふみ〳〵うちうれど次り
我御世とのうち明日
まさわうち世のうち
細　朱雀院の御代と花色
ハ朱のうち代よりうち
と相蓋御門のうち世に
うるれ花ようきうち絵
ゆうち
あ歌えのうち〳〵絵
　　細　梅壺の歌えうちうち
ゆひ〳〵御のうち花紙

朱よりの花　世上みも　紙絵と歌よとく
この花乃世よいうぐうく　ゆりうちうち
うちのうち　うちと　あめのうちいうちうみさ
ゆ　今あ〳〵あ〳〵うめうんうちはあいうちうち
ゆうう　ぐありうんうぐうりをうちとのこと
まど　中納えとん　みをうちとぐ　ちうちうち
　　絵はの中〳〵
しせ絵〳〵うち　えん
まとよあ　のけてうちを絵めうと　流みもう
ゆううちうせうて　じめつがよれ　ちどうを
　　細　絵絵
　　細　年中の花舎の絵
ゆうう　うちとうちのうちれをうち
あえの　ゆりうくけうあうと　ゆのどどど
をのうりぐようけうよ　延喜のはてげうち
　　絵のうちうせうちうせ
うのうちうちうせうへうよまうわは
世のうちをうをうるうちうようの歌え

うぐうちうう　絵
　　絵やうを朱雀のゆ
ゆひてえ義より世ゆう
うんうう　　細　えん義より絵修え
　　金無う後えう　河　えん義絵
　　師在り高名録　采女　正巨勢
　　金岡孫　公忠子也
えんようちうちうぐんの絵
　　細　花色　ちうう　ちうう
うう絵の絵　可紙　花紙
の絵を透うう袋より入う
をえうや　又紙をえうを
ううう絵うてあうべきに
や　やひ　えうう　　絵　流うて
うう絵〳〵うう絵うう
ぐんのうう　　細　花色　絵
可海より　絵ハうう
ううに梅をうをうとうう
えれうう　えれうう　えうう
ぐう　ようて　うう　うう絵の
梅を流のうこにうう　えう
れううてうう　絵　えう
うの苔れの絵をうえれ
うう　うう

のうぐうり絵〳〵日のだうぐうぐうんのぐうう
れんよう　うう　うう　うう　うう
うう　うう　うう　うう　うう
うう　うう　うう　うう　うう
う

さうんの中ねと　雅とも　細　淺の暴風　抄行事
分てそく　紀　朱雀院の御製　長恨歌の絵式
まてうまつぬとく　孟　志のめ　おれと　世を
標のまくもろ　ものて　抄　注連のふ　女
時ふ　さうん　ものて
と　秋　の　ものて　晩　饗宴
とそ　れて　紀　行術の　細
合と　作　に　抄　時　朱雀の
紀　と　抄　時　朱雀の
うん　一　花　抄　真
を　時　者　妃　方　に
つ　て　為　戦　謝　上　皇　といひて　旧好　朱雀院　い　皇　抄　揚
妃　の　孟　別　の　抄　細　朱雀院の

ハ　ざ　う　ん　を　い　と　ま　ご　け　る　け　ま　ど　ら　く
え　て　あ　ど　く　昔　の　ば　う　ん　ざ　の　ら　て　と　ま　さ
け　ら　あ　り　こ　ゆ
抄　と　物　語　と　あ　の　ら　い　し　て　に　あ　く　ぬ　ら　ら　て
河縹　唐戌
ち　め　の　ら　い　し　て　に　あ　く　ぬ　ら　ら　て
抄　位　を　ら　ひ　ら　と　を　朱雀の　浪　悔　く
ぞ　あ　ら　て　せ　と　ら　う　く　ら　海　わ　ら　く　ま　ら
孟　源　と　朱　の　お　ら　ら　り　細　ま　み　評　く
け　ら　ま　ら　ど　ま　ら　て　と　ひ　ら　ら　え　ま　せ

御　左　位　の　御　乃　紋　よ　く
あ　ら　て　時　と　を　て　さ　れ　史
晩　朱　代　の　く　く　い　と　ふ
方　と　く　お　朱雀の　ら　く　に
こ　の　く　れ　ん　の　中　と　を　抄
を　せ　ど　く　あ　れ　ば　も　た
や　う　よ　と　ま　て　く　を　ま　み
さ　海　よ　く　ま　る　く　ま　る　く
一　一
あ　の　女　御　晩　朱雀の　御　を
朱　母　后　の　ら　う　作　て　お
し　后　の　妹　の　方　れ　女　御　方　へ　を
中　納　言　の　方　れ　女　御　方　へ　を
作　る　し　た　后　の　四　君　る　れ
た　后　ら　う　作　く　も　せ　ら　く
う　孟　円
内　作　の　ん　の　志　孟　勝　月　秋
も　志　を　ら　く　ま　ら　ま　ら　く　作　淺
の　御　を　よ　て　て　た　て　て
ら　く　く
ら　ら　く　く　の　晩　細　た　い　抄　て
た　い　く　き　飯　西　む　き　て
た　い　ま　た　い　南　也
女　房　の　ら　ら　く　ひ　細　碁　盤　而

抄　け　む　り　し　む　り　し　む　の　れ　し　く　ひ　ま　や　き
ん　淺　の　ま　ま　の　ま　と　ま　り　細　お　ま　ま　く　ま　く　ま
ら　て　て　し　て　の　の　の　ま　ま　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
い　ま　び　し　て　の　の　の　ま　ま　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
こ　の　ま　て　し　た　は　人　よ　た　れ　て　て　り　て　た　さ
晩　三月　日　ま　り
海　よ　ん　り　り　て　て　め　て　た　そ　の　ひ　と
ら　り　て　て　め　て　た　そ　の　ひ　と
う　梅　舞　と　こ　ら　ん　ら　の　た　続　合　く　孟　円
う　ど　め　て　あ　た　る　や　う　る　し　ど　り　て　た　さ
海　よ　と　う　な　う　し　て　て　ひ　ら　り　ま　ま　れ
れ　ま　ど　と　を　ま　つ　く　を　ま　ま　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ら　ひ　よ　ま　り　し　て　て　を　て　て　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　れ　て　て　ら　て　飯　ど　く　い　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら
ど　ん　の　ら　の　ま　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く
方　へ　の　方　へ　の　ま　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く　く

也。上ハ一ハ[illegible]花式後合の出裝束ハ天德四年三月廿日内裏歌合を摸して[illegible]
[illegible]ハ[illegible]清涼殿の西北[illegible]てあり。[illegible]
座ハ二間為左方座。後殿前ハ[illegible]緑端畳為左座。後涼殿簀子為侍臣座。
[illegible]西京記ニ[illegible]
左ハ[illegible]んのそこよ 花天德
[illegible]合。左方。浧流。紫檀机
[illegible]綺地敷
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

細 絵の判者をしるす

[illegible]

細 絵の判者をしるす

[illegible]

細 絵の判者をしるす

[illegible]

[illegible]

中納言の絵 細殿雲也 [illegible]の絵 [illegible]の方 [illegible]

[illegible]と一番 [illegible] 細殿方一番の勝と

[illegible]の絵 [illegible] 晴日

[illegible]合は負指 [illegible]

[illegible]天徳歌合は金沢五

枝を別候 [illegible]

[illegible]の枝

[illegible]

中納言の [illegible]

[illegible]の [illegible]

[illegible]氏君絵の [illegible]

[illegible]

その世よりの [illegible]

[illegible]絵 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

命さいかへ　細　顔回ノ不幸
短命のごとし　白氏「新豎墓ノ碑」
過不幸　短命　冤　論語
文人数奇　詩人薄命
文集

ものごとにふれて作りて
ものごとにさえるとつくろわぬくらやみん
じゐん　細　初つかの月
後の世のためにまもりやすいく
といふりの世よいとそりくすりのうれ
ばやあんいとくくあるんの命
さいそくとるべきいとくさりの
よるんにれさくじまれさくでもんな
おとろまどをておれどもよこの
くるくるひそといさあさせあ
ひくかんさいのうさぐのねをへさを
しよつさるくまさとりるくまさとりさ
てひくくふるくくも作ごろさ

定法蔵ハ行ヒ　ちくらよ精を
入ちくずちく改のくさハ
ちをけるさ
ちくくくのくさん　孟浩
ちくくるよくくくてハ法
ちくくくくくくくくとも
ひーくとのちくく
ふゆくくりお　紙幸浮の
くくりをつくくくくくやや
くくくひーくく
ちくくぬ山くけよりて
細　白の梅くひのくく
孟海色よりて花絵
くをけくくくのちく
くひくくくぬくまちく
くくくハくくくくくも幸は
限ありて世ちまくくくぬ
くく　お　ちくく早下のふを
くくくくくくく花
くるくくくくくくんせくく
お上流よ海ハくさ法ほる
くくれくくくくくくまよ私あさ
ちくく海ちよ詩くく
のちくく

ちくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盃酒の意ともぐれてあそ
ばせだいぶ一への上手の位
とやうにさけうるふとく
うるすとやう作古の上手
の位立もあるべきこのくらい
位なるべし　暁　書司　女官
和琴をもてあづかるとき
先和琴をつくるべき雅の
樂器のすがたをうるはし不
見細目ととの巻よ表注
少将の命婦　おなじ人歌題
をひくべき結合の人数た
方の人とうたを
くるべし結びすべ　花山院よ
いさかづくるべきふ人掛よ
とをうるべ歌をもうるを付
ものとしふべ天德の合歌
名沖雅信紀貫之相手
伺臣百人お作之

くるべうるべ　おなじ
ぬるざなりとおそぐれて
ものくまひする
ものひるるさまや院のれ
ものくしものくおそ
ものれるぬ女余日の月指出てこるる
いまぐさやうるねどたるこの見おりを
紅なるよ人のつきのれことめ
細ほ人のやうにそど留物
指中納言わどん結びうる結さいひ人どよい
おほ夫筆を強もうる
ものくてくるべうるべ
おほ歌を強もうる
と地ぐるべうるべ
細家よ同作の人の中
つるべ人の中よもぐれうるをてだう
細作なるべ
し結びすべうるべ
まくよ花の名ものれうるとめ

みるべ八月ぞ又くるわて
細ものの判者ゆうるべ
暁別して歌をまるう
結句
くるべくの巻八中文よ
細藤雲の方にをを結
ふべくと定め結べ女院
又中文とりふれるべ
歌
これくるべめ又のうる中紀
盃は後合に出れくを
物あるべくの巻の後乃まそ
るべくとるべる紀
えるべ　細をを上も奥
ありと物がもべ盃後の
は後よふをやうるべを法
のくるべるべ

撰中納言八　細ふのやう
なりふ歌殿のるを
ものくる

ものうるべくえて。巻のさえづる紅ふらゆ
きめでくるべきあるべくけ也。ろくだ八中
盃藤雲ろうる文のは方ふるべ結びすこ八れぞ。みるべ
ねて結びうる結をは八のくとよ八ば文の定
をくるべふるのくるべくのもるべ八中ぞよ
ものくるべを文とるべ結びれだ。
細ほの名作
これぐるべめ文のうるのもるべくゆう
細ものを結
れるべくるべ文のもるべ
えるべ文もれ八ゆるをもて見てめくるべ
れ
と。結びくるべくをなるべ結びうれるべるべ
ほの極意とうるべうるべ
つけてもうるべてゆるべ文八撰中
納言八れ物がるべとうるべるべとふやま

人のはらぐーい
盃ごとあるよ冷のはらぐ
しのうちさしこ
ぐさせちゃるどもみも
はいかぐーちゃ
花世のここここよ延喜天
暦の聖代とひるうへ
しちう冷泉院とそ天
暦ちうぐーへ行く幾答
の例よひろう天徳の会答
をはいかせのこと 細事
延喜天暦とうぐーはは
冷泉院をハ天暦よ所
てこうにいるんと
実ちうこと年ちう
てみ徳のうもうとと
ちくそ 細 源氏 係退を
つこと こーを上
もはは成人こそと
ちうく源氏内府く

ちう光さうぐーいうへのはらぐーいを
とうちはーちうよろれば行こ海やう
よはーしうこ海とへちれどこちう
うてそ。ちのりくうちうとはは
ちうぐーさ光こ光ちうみもはは河ちう
とすあの人乃ひつふ貴き例をそ
つんとはがはうこーぐ海のうるえう
かうはあうびもぐーさすぐう
をうせ係てつぐーさうのは世ちう
ちくぐるをつねるうはるよんを光て
今すうちうびかつまうとこ
ちう民世こそひうさうんとあくはと

河大友皇子ハ五第ニて
任大政大臣天武天皇元
年被誅ハ六第也東三
条左大臣ハ九第ニて任
左大臣四十五第ニ薨ス
世よわけ人の
河 後漢書曰佐ル身老
敗ル名絶ル功成名遂而
身退者天之道也老子經
この世よい分の行ぐ
河原内左大臣ハ敗ル
とおて摂政ゆづうふ
うれば海をのはいとふ
とひあうふ
中ぐーうちたちう
細注ハのうえはるうあ
この金をたりはと金と
幸ーのうと帝よいり
よはうち方幸可思く
盃中注ちうここうて
づーうし結ーよ人と金
のうびうくーう
はは 花 源氏の注

[illegible]

[illegible]

[illegible]